

氏名	高 橋 利 近		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1404 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年9月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学 位 論 文 題 目	骨膜下顎骨離断術後の骨新生におよぼす自家骨小片移植の影響 に関する実験的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 田辺剛造	教授 小川勝士	教授 村上宅郎

### 学位論文内容の要旨

骨膜における骨新生能力に注目し、さらに骨新生を助長させるため、家兎の骨膜下顎骨離断術後に自家骨を移植、骨新生の状態を経日的に観察した。実験動物は1.5kg前後の幼若家兎を用い、下顎角部から下顎頭を含めて骨膜下顎骨の片側離断術後、摘出した顎骨より骨小片を採取、骨欠損部に移植した。術後、3, 7, 10, 14, 21, 30, 60, 90日目に下顎骨を摘出し、X線学的、病理組織学的に検索を行った。

その結果骨新生の時期は、X線学的には術後7日目では骨欠損部中央にわずかにX線不透過像が認められたにすぎないが、10日目では明らかに切断端より骨欠損部中央に向かい新生骨梁様のX線不透過像がみられ、さらに移植骨小片間や下顎頭部にも同様に不透過像が認められた。病理組織学的には術後3日目で一部残存骨膜に沿って石灰沈着がみられ、術後7日目には移植骨小片を中心として旺盛な軟骨の分化誘導が認められた。骨膜からの骨新生では粘膜側の上方や下顎頭部において骨新生は著明であるが、骨小片を移植することにより、さらに骨欠損中央部や下顎角部などにも骨形成が認められた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は下顎骨を骨膜下に部分切除された臨床例に有用な骨再生をみた経験より、その修復過程を家兎の下顎骨を利用して、骨膜下顎骨離断術後の骨再生におよぼす自家骨小片移植の影響を経時的に観察したものである。それによると自家骨小片移植により骨再成がかなり促進されているとの結論が得られ、临床上にもこの応用の道をひらいたものとして、医学博士の学位を得る資格があるものと認める。